



アドソル日進の 上田で ございます。

本日は、ご多用な中、
当社の、「2018年 3月期 決算説明会」に
お越し いただき、
誠に ありがとうございます。

それでは、
お手元の スライドに 従いまして、
ご説明 申し上げます。

2018年3月期 決算概要

新・中期経営計画 Vision2021

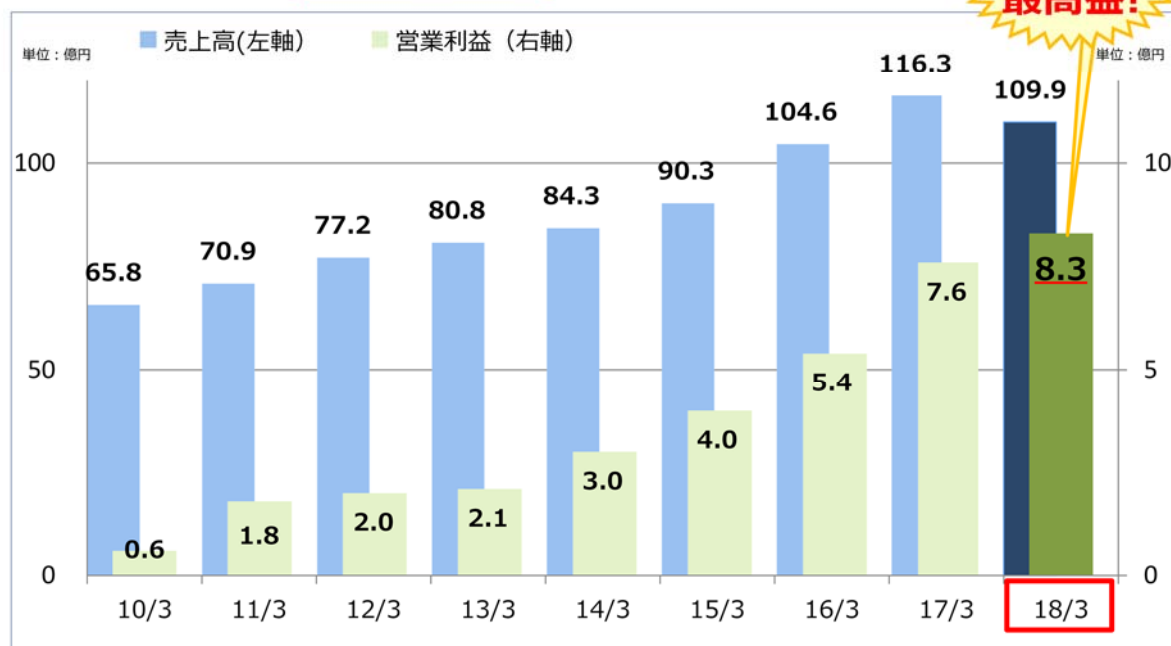
2019年3月期 重点施策と業績見通し

2

本日は、
ご覧の項目について、ご説明 いたします。

まずは、「2018年 3月期 決算概要」から、
ご説明 いたします。

- ◆ **8期連続 増益**
- ◆ **前・中期計画 1年前倒し 達成**



過去からの業績推移です。
「2010年」から「8期連続の増益」を達成しました。

売上高は、「109億円」、
営業利益は、「8億32百万円」となり、
過去最高益を、更新し、

「前・中期経営計画」を、
「1年前倒しで達成」することが、できました。

これもひとえに、皆さま方のご支援の賜物と
この場をお借りしまして、
厚く御礼申し上げます。

次世代社会システム領域の拡大

- 社会インフラの更新需要の取込み ⇒ 堅調な需要の、継続取込み
- ベースロードの骨太化 ⇒ エネルギー（電力・ガス）領域、次世代自動車（先進EV・自動運転）等 対応強化

新たな価値の創造・提供に挑戦

- セキュリティ・ソリューション「LynxSECURE」シリーズ
 - 「工場」「生産機械」「家庭」「オフィス」向けに、「セキュア・シリーズ」の展開
- 「IoT」「AI」「セキュリティ」で、アライアンス戦略の推進
 - 日本検査キューエイ社（情報セキュリティ領域）
 - 菱洋エレクトロ社・リョーヨーセミコン社（AI・IoT領域）
 - ヌーヘル社・ナビオコンサルティング社（コンサルティング領域）
- 「IoT時代のセキュリティ・フォーラム2017」3年連続開催

競争優位の発揮

- 「超上流領域」「セキュリティ」「IoT」等をキーワードとした人材育成の強化
- グローバル開発体制の強化（中国2社、ベトナム3社）
- 産学連携・共同研究 ⇒ 「慶應義塾大学」「早稲田大学」「名古屋工業大学」

重点施策の進捗状況をご説明いたします。

「次世代社会システム領域の拡大」では、

- ・電力・ガス等のエネルギー関連でのベースロード化を推進すると共に、次世代自動車（先進EV、自動運転）に、注力しました。

「新たな価値の創造・提供に挑戦」では、

- ・セキュリティ・ソリューション「LynxSECURE」の展開が進んでおります。公共システムや、介護システムで、実証検証を進めています。
- ・また、提携先様との、「アライアンス戦略」にも、積極的に取り組んでおります。

「競争優位の発揮」では、

- ・セキュリティの、ニーズ拡大を見据え、事業体制の強化に繋がる人材育成や、
- ・「中国2社」、「ベトナム3社」のグローバル開発体制の、さらなる強化、
- ・また、「慶應義塾大学」や、「早稲田大学」、「名古屋工業大学」との産学連携にも、しっかり取り組んでおります。

◆ **過去最高益!** EPS **61.3**円、ROE **17.2**%

(単位:百万円)	2017/3期		2018/3期		前年同期比		
	実績	構成比%	実績	構成比%	増減額	変動P	増減率%
売上高	11,634	-	10,997	-	△ 637	-	△ 5.5
売上総利益	2,462	21.2	2,516	22.9	53	1.7	2.2
販売管理費	1,695	14.6	1,683	15.3	△ 11	0.7	△ 0.7
営業利益	767	6.6	832	7.6	64	1.0	8.5
経常利益	777	6.7	857	7.8	79	1.1	10.3
当期純利益	531	4.6	553	5.0	21	0.4	4.1
EPS (円)	59.1	-	61.3	-	2.2	-	3.7
ROE (%)	18.8	-	17.2	-	-	△1.6	-

5

損益状況は、

「収益力の高いプロジェクト」への選択と集中や、
 「生産性向上への取組み」、
 「ソリューションビジネス」が
 好調であったことから、

「売上総利益率」は

「1.7ポイント」改善しました。

「営業利益率」は、

「セキュリティ」や「開発環境の整備」等に
 関する投資があったものの、
 「1.0ポイント」改善しました。

更に、「経常利益」、「当期純利益」においても、
 利益率を改善しております。

セグメント別売上高

- ◆ **社会システム事業** : **通信分野** : 5G (次世代通信) で拡大
: **ビジネス分野** : 前期に「電力自由化」ピーク
: **ファイナンス分野** : 戦略的シフト
- ◆ **IoTシステム事業** : **ソリューション分野** : 独自ソリューションで拡大

(単位:百万円)	2017/3期		2018/3期		前年同期比	
	金額	売上比%	金額	売上比%	増減額	増減率%
社会システム事業	9,657	83.0	8,571	77.9	△1,085	△11.2
ビジネス	5,785	49.7	5,508	50.0	△277	△4.8
通信	188	1.6	278	2.5	90	47.9
制御	1,972	17.0	1,583	14.4	△389	△19.7
ファイナンス	1,711	14.7	1,202	10.9	△508	△29.7
IoTシステム事業	1,976	17.0	2,425	22.1	448	22.7
組込み	1,420	12.2	1,612	14.7	191	13.5
スマート・ソリューション	556	4.8	812	7.4	256	46.2
売上高合計	11,634	100.0	10,997	100.0	△637	△5.5

セグメント別の「売上高」について、ご説明いたします。

- ・「社会システム事業」は、
前期に電力の自由化関連がピークとなり
ビジネス、制御分野は減少しました。
通信分野は、「次世代通信 5G」がスタートし、
増加しました。
ファイナンス分野は、
戦略的にシフトしたことにより
減少しました。

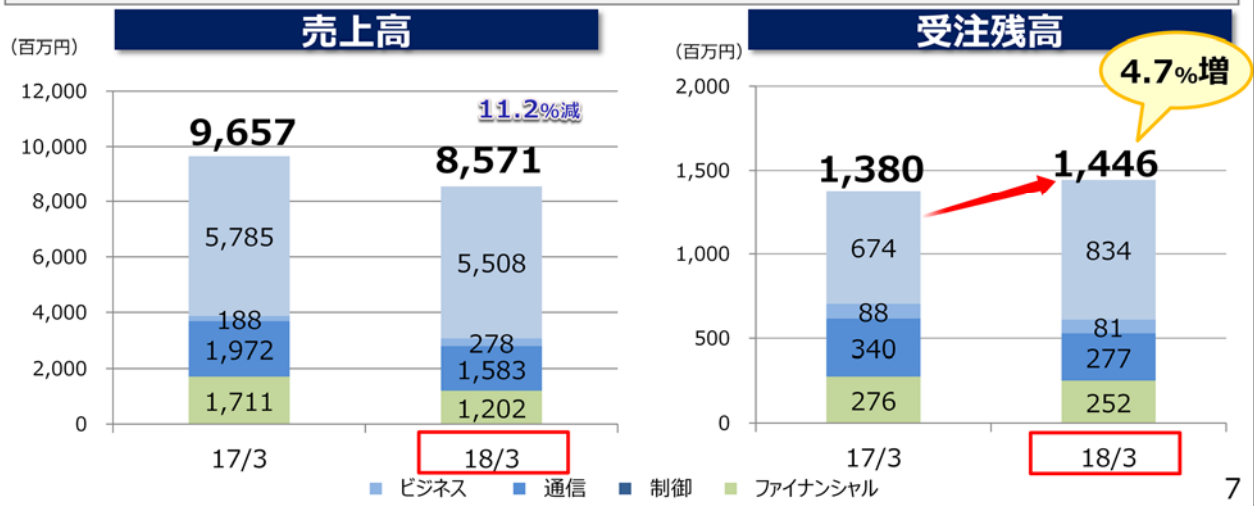
結果、社会システム事業の売上高は

「 11.2% 」減の 「 85億 71百万円 」となりました。

- ・「IoTシステム事業」は、
セキュリティ関連、IoT関連、
当社独自のスマート・ソリューション等が堅調に推移し、
「 22.7% 」増の、
「 24億 25百万円 」となりました。

受注状況

■ ビジネス	● <u>ガス</u> 関連、 <u>旅行</u> 関連、 <u>メディカル</u> 関連が堅調
■ 通 信	● <u>電力自由化</u> のベースロード化
■ 制 御	● <u>5G (次世代通信)</u> を見据えた、既存対応領域の強化
■ ファイナンシャル	● <u>宇宙システム</u> 関連に、新規参画
	● <u>電力系統</u> 関連、 <u>道路</u> 関連、 <u>防災</u> 関連等が、堅調に推移
	● <u>信販向けクレジット・カード</u> 関連が、堅調に推移
	● 戦略的シフトにより減少



社会システム事業の、受注状況は、

- ・「ビジネス分野」では、
ガス、旅行、メディカル等が 堅調に 推移し、
電力自由化は、前期に、ピークを迎え、減少しておりますが、
今後の、 発送電分離 の 対応に向け、準備を進めております。
- ・「通信分野」は、
次世代通信・5G を見据えた 対応を 強化しております。
- ・「制御分野」は、
電力系統、道路、防災等が、堅調に推移し、
新たに、「宇宙システム領域」に 参画しました。
- ・「ファイナンシャル分野」では、
クレジット関連が、堅調に 推移しております。

結果、

売上高は、「11.2% 減」の、「85億 71百万円」となりました。

期末の 受注残高は

「4.7% 増」の、「14億 46百万円」となり、

堅調を 維持して おります。

受注状況

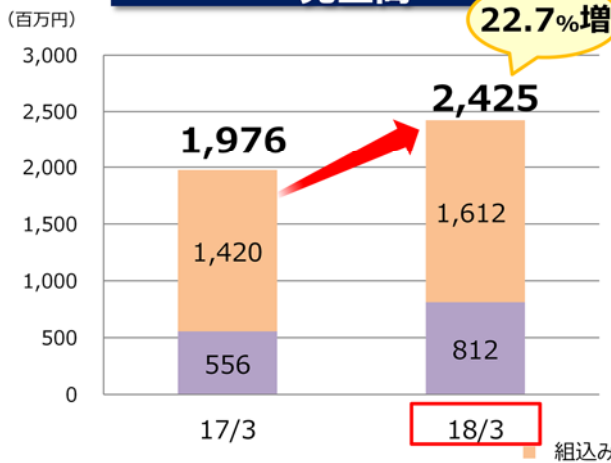
組込み

- 次世代自動車（先進EV、自動運転等）関連への対応に注力
- 医療関連が堅調に推移
- オフィス機器（複合機）は減少

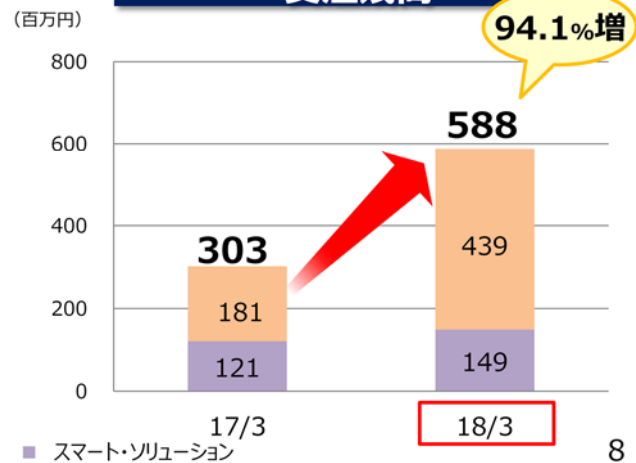
スマート・ソリューション

- セキュリティ・コンサルティング関連が拡大
LynxSECURE ・ 公共ネットワーク向けの検証
・ セキュア・レスキュー採用（大手公益企業）
- 地理情報（GIS）が堅調

売上高



受注残高



続いて、IoTシステム事業の 受注状況です

- ・「 組込み分野 」では、
「 先進EVや 自動運転 等の 次世代自動車 関連 」が拡大し、
「 医療、介護機器の、医療関連 」が 堅調に 推移しました。
「 オフィス機器（複合機）」は 減少と なりました。
- ・スマート・ソリューション分野では、
「 セキュリティ・コンサルティング 」や
「 地理情報（GIS）」が 拡大 しました。
「 LynxSECURE 」の拡充も 積極的に 行っております。

以上の結果、
売上高は、

「 22.7% 増 」の「 24億 25百万円 」となりました。

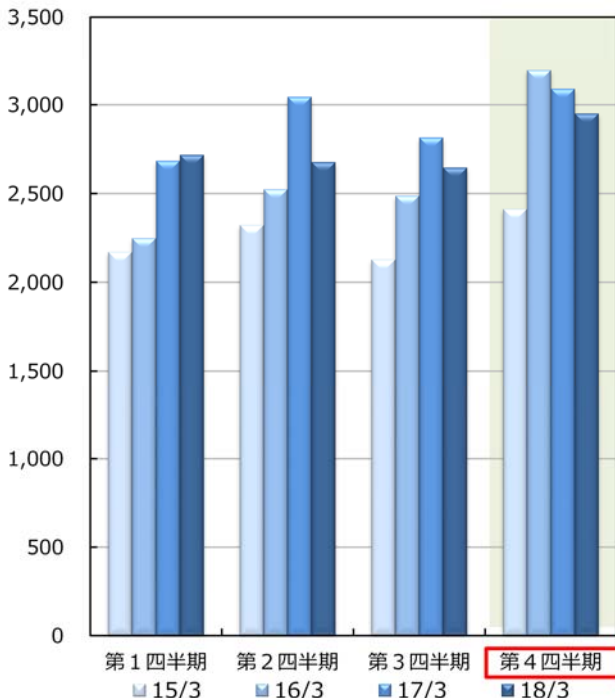
受注残高は、

「 94.1% 増 」の、「 5億 88百万円 」となりました。

売上高

● 電力関連の一部遅延

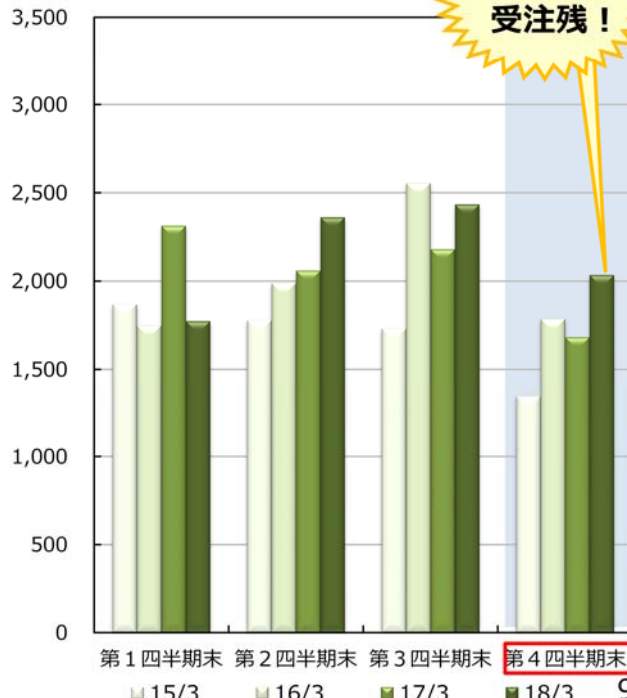
(百万円)



受注残高

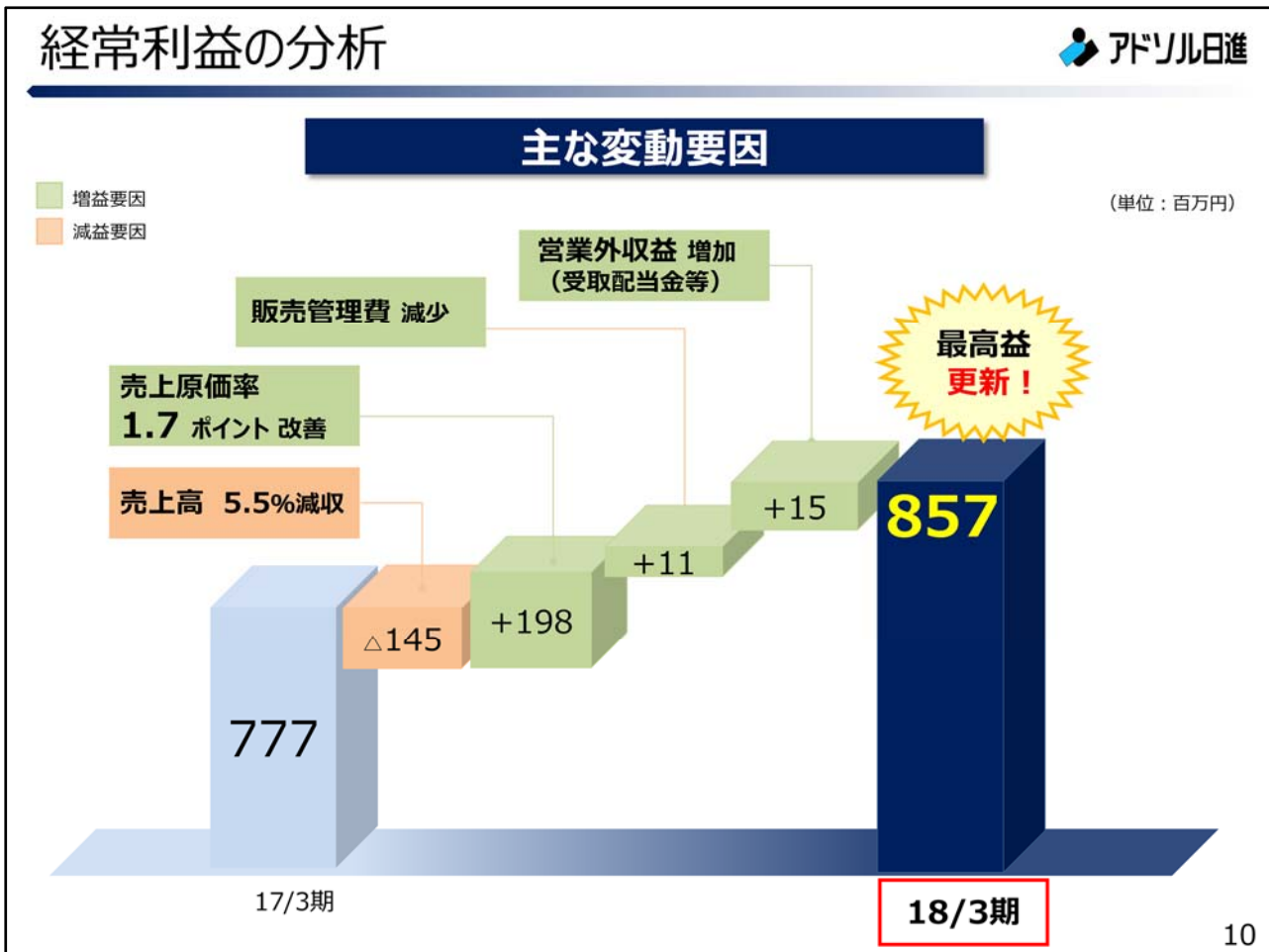
● 期末・受注残高 **20億円** 超過

(百万円)



四半期毎の「売上高」と「受注残高」は、
ご覧の通りです。

受注残高は、
堅調に推移しており、
期末としては、過去最高の、
「20億円」を、超過しました。



経常利益は、

「 8億 57百万円 」と、「 過去最高 」を更新しました。

生産性向上への 取り組みや、
 案件の 選択と 集中 などにより、
 原価率が「1.7ポイント」改善 したことに よります。

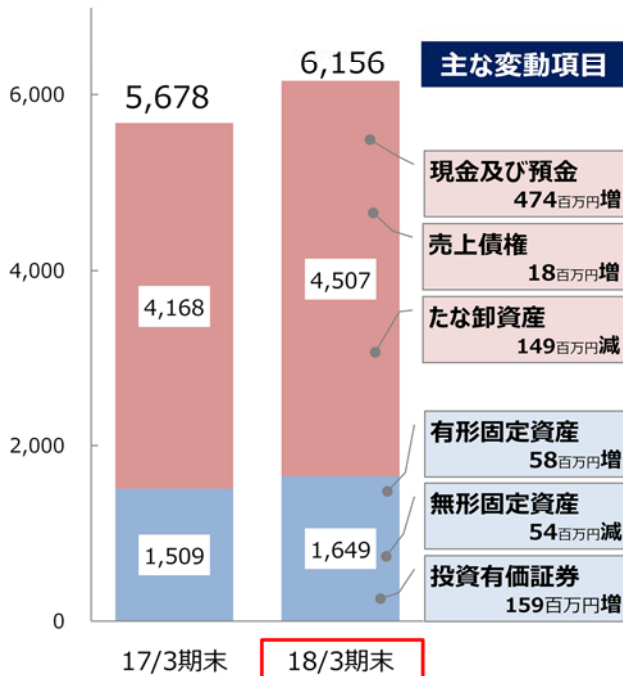
貸借対照表(前期末比較)

資産

● 総資産：61億円

(単位：百万円)

■ 流動資産 ■ 固定資産

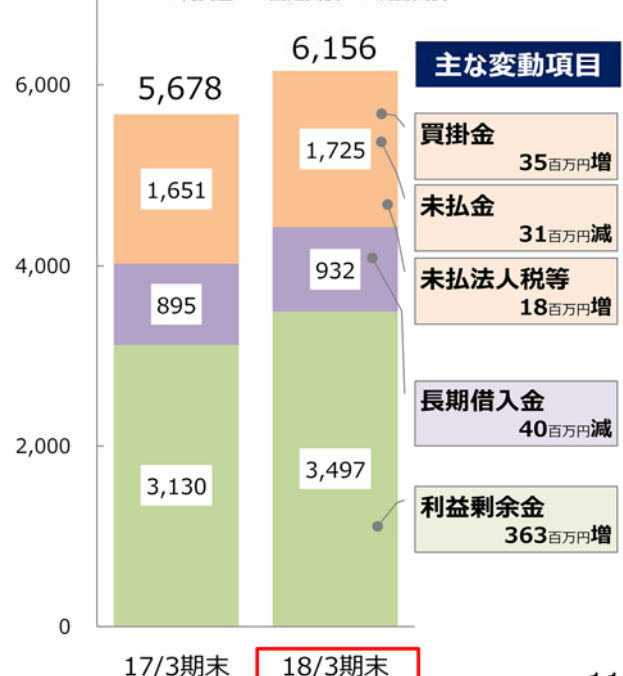


負債・純資産

● 自己資本比率：55% (1.2%上昇)

(単位：百万円)

■ 純資産 ■ 固定負債 ■ 流動負債



貸借対照表は、ご覧の通りです。

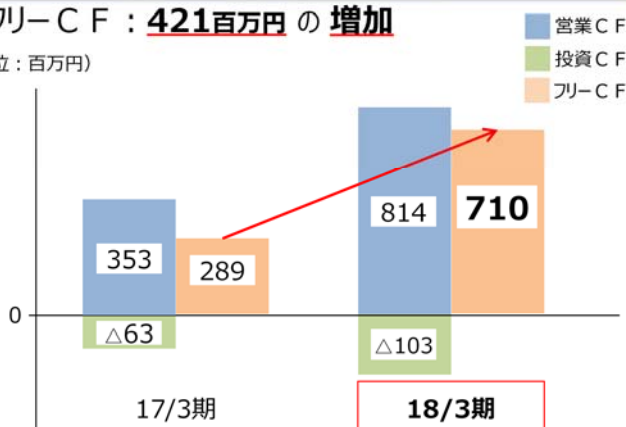
総資産は、「61億円」となりました。

自己資本比率は「55%」と、
「1.2% 上昇」し、
健全な、財務内容となっております。

フリー・キャッシュ・フロー

●フリーCF：**421百万円**の**増加**

(単位：百万円)



(単位：百万円)

	17/3	18/3	増減
営業活動キャッシュ・フロー	353	814	461
投資活動キャッシュ・フロー	△63	△103	△40
財務活動キャッシュ・フロー	△190	△235	△45
現金及び現金同等物の期末残高	1,318	1,793	474

変動要因

(単位：百万円)

【営業活動キャッシュ・フロー】

税引前当期純利益	851
減価償却費	85
たな卸資産の減少	149
前受金の減少	△40
売上債権の増加	△18

【投資活動キャッシュ・フロー】

有形固定資産の取得による支出	△92
無形固定資産の取得による支出	△7

【財務活動キャッシュ・フロー】

短期借入による収入	140
長期借入金の返済による支出	△40
配当金の支払額	△189
自己株式の取得による支出	△149

12

キャッシュ・フローは、ご覧の通りです。

「フリー・キャッシュ・フロー」は、
「7億10百万円」と、
前期比で「4億21百万円」増加しました。

結果、
「現金及び現金同等物」の、
期末残高は、
「17億93百万円」と、
前期比で「4億74百万円」増加しました。

2018年3月期 決算概要

新・中期経営計画 Vision2021

2019年3月期 重点施策と業績見通し

13

次に、「2021年 3月期」を最終年度とする、「新・中期経営計画 Vision2021」についてご説明いたします。

先ほど、お話ししましたとおり、「2年前」の「2016年」にスタートした「中期経営計画」では、「2019年3月期」に、「営業利益 目標 8億円」の達成を掲げておりましたが、1年前倒しで達成いたしました。

また、前・中期計画がスタートしてから、「2年」が経過しておりますが、この「2年間」で、「環境」も「大きく変化」して参りましたので、この度、新たに、「新・中期経営計画」を策定した次第です。



まず、「市場動向」及び「外部環境」の状況ですが、
 「2020年」の「東京オリンピック・パラリンピック」を
 一つの契機として、ご覧の社会インフラは、
 「次世代型」に向けて、現在、「移行・更新」が
 始まって おります。
 その「大きな指針」として、「政府」は、
 「仮想空間」と「現実空間」を
 「高度に融合」させ、「社会的課題」と「経済発展」
 を両立させた、「人間中心の社会」を目指そうと、
 「Society 5.0」の「コンセプト」を掲げ、
 その実現に向け、「未来投資戦略」を打ち出してお
 ります。
 「Society 5.0」は、これまで、
 「IoT (Internet of Things)」を更に
 「進化」させたもので、「人」「モノ」「サービス」
 など「あらゆるもの」が「つながる」、ことを
 意味 しております。



15

当社は、社会インフラでの40年の実績と、全IoT領域での最先端技術、加えて、比類なき革新的なサイバー・セキュリティ・ソリューションを提供するなど、IoTトップランナーを目指して 事業展開を図って参りました。

「モノのインターネット」の「IoT」は、今や、急速に進化しており、人・モノ・サービスまでが、高度につながる、IoXの時代が到来し始めています。

自動車や列車・船舶の自動運転、AI、ロボット、ドローン、遠隔医療・見守り介護、キャッシュレス、拡張現実などは、一例です。

当社には、特許を含めた先進的なIoTテクノロジーと比類なき革新的なサイバー・セキュリティ・ソリューションがあります。

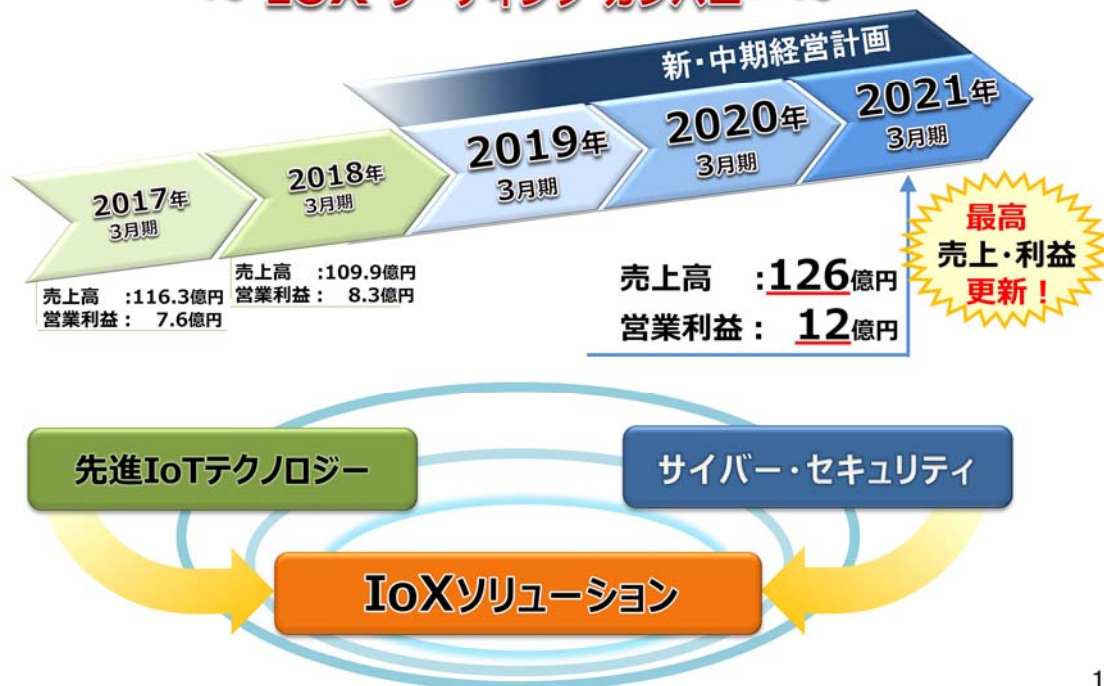
また、社会インフラ分野や、製造業を中心とした産業分野での実績、複数の大学との先進的な共同研究、先端IT技術研究所、米国サンノゼのR&Dセンター、中国・ベトナムの開発センター、半導体メーカーや、ハード・ベンダーとのアライアンス、など、

競争優位の源泉を数多く持ち、これらを有機的にフル活用し、顧客ニーズに応える、「新たなソリューション」を創造することができます。

すなわち、IoX化が進む社会インフラや産業分野での、ICTニーズにおいて、当社がリーディング・ポジションを獲得しており、当社の事業活動が、超スマート社会の実現に直結しているものと確信しております。

IoXで 未来をつなぐ ICTエンジニアリング企業

～ **IoX** リーディングカンパニー ～



「新・中期経営計画」の「メイン・コンセプト」は、「IoXで未来をつなぐICTエンジニアリング企業」としました。

当社が培ってまいりました、「先進的なIoTテクノロジー」と、「革新的なサイバー・セキュリティ・ソリューション」を「高度に融合した」「IoXソリューション」を「コア」に、「IoX」の「リーディング・カンパニー」を目指して参りたいと思います。

2021年3月期の業績目標は、
 売上高 「126億円、」
 営業利益 「12億円」としました。
 「最先端」の「研究開発」に
 しっかりと「投資」を行いつつも、
 「利益で成長する3か年」としたいと思います。

社会インフラ事業

領域拡大・拡充

「電力分社化（2020年）」
 「次世代通信・5G 商用化（2020年）」
 「ガス会社の分社化」「宇宙システム」「高度道路交通システム」

安定した収益確保

「エネルギー（電力・ガス）」「道路・鉄道」
 「航空」「公共・防災」「通信ネットワーク」

先進インダストリー事業

モノづくりのIoT化

「次世代EV自動車・自動運転」「IoT工場」
 「産業機器」「設備機器」「医療・介護機器」「ドローン」

アウトソーシング

「顧客製品を当社センターでフル・サポート」

キャッシュレス

「次世代決済システム」

続いて、事業戦略です。

今期より、「社会システム事業」、「IoTシステム事業」を、「社会インフラ事業」と「先進インダストリー事業」に再編しました。

社会インフラ事業では、「電力・ガス」の「分社化」、「5G・次世代通信」で、事業領域の拡充を図るとともに「宇宙システム」、「高度道路交通システム」等の新領域で、「事業領域」の拡大を図ります。

先進インダストリー事業では、「先進EV自動車」や「自動運転」への取組みが加速しております。「最高レベルの技術提供」や「開発センターの増設」など、「顧客ニーズ」にしっかりと対応してまいります。また、「工場」や、「産業機器」、「設備機器」、「医療・介護機器」の「IoT化」や、「ドローン」は、「成長市場」であり、「サイバー・セキュリティ・ソリューション」の提供とともに、「ものづくりのIoT化」に取組んで参ります。



18

次に、成長戦略 を ご説明いたします。

さきほど、「IoXの時代」について、お話ししました。

その コアとなるのが、右の図 にある、

「IoX システム」です。

「現実空間」で 発生する 様々な 「情報・データ」 を

「センシング」し、「インターネット」を介して収集し、

「AI」で「分析」して、「必要な 情報・データ」 を、

「現実空間」に「フィード・バック」する、

というものです。

「IoXシステム」には、「デバイス」、「センサー」、「近距離無線」、

「広域ネットワーク」、「AI」、「ビッグデータ」など、

様々な 「技術」と 「ノウハウ」が 必要となります。

特に 「重要な要素」は 「セキュリティ」です。

当社は、「先進的な」「IoTソリューション」と

「比類なき」「革新的な」

「サイバー・セキュリティ・ソリューション」を

「高度に融合させた」「IoXソリューション」を「コア」

として、「IoX総合エンジニアリング事業」を展開し、

「社会インフラ事業」と「先進インダストリー事業」の

事業拡大を加速させていく計画です。

提携戦略

アドソル・グループ (資本提携、M&A、業務提携)



グローバル戦略

アジア・アセアン での サポート体制拡充



価値創造戦略

米サンノゼ R&D センター (先進テクノロジー)

大学・研究機関 (共同研究・実証実験)



技術戦略

IoX システム 技術



資本政策

資本効率の向上 (EPS、株式流動比率)



コーポレート戦略

働き方改革、人事制度改革、業務改革



ESGへの取組み

テーマ：エネルギー、水、食糧、防災



その他の
重点戦略は、ご覧の通りです。

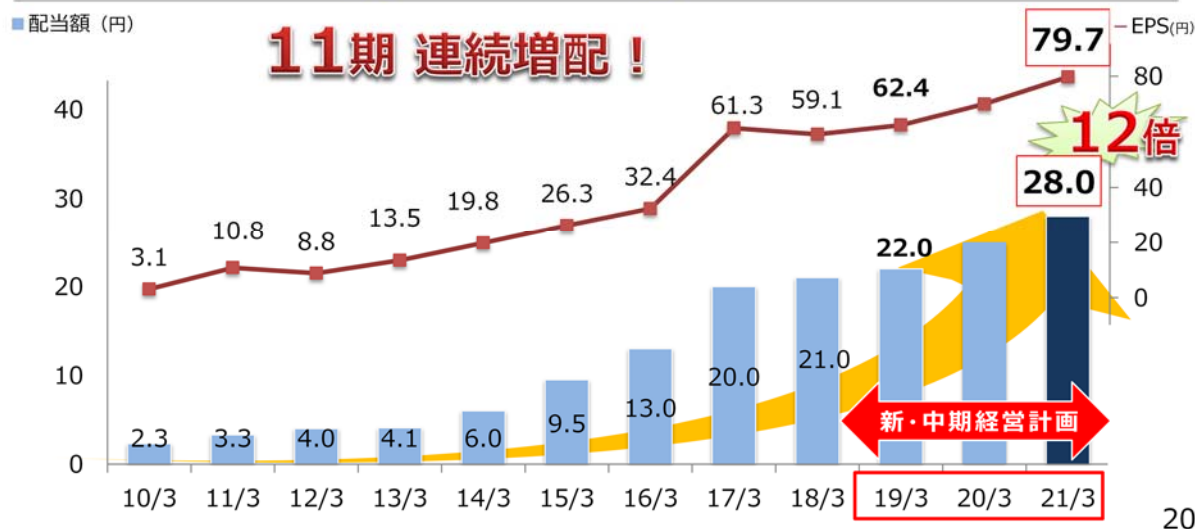
2021年3月期

配当性向 : 35 %以上 (+ 2 ポイントUP !!)

配当金 : 28 円 (+ 7 円)

E P S : 79 円 (+17 円)

2018/3期比



続いて、「利益還元方針」です。

ご覧の通り、

「2010年（社長就任以来）より」、

「連続増配」を「達成」して参りました。

「株主の皆さま」の「ご期待」に

お応えできるよう、

「今期より」、「配当性向」は、

「2ポイント・アップ」の「35%以上」とし、

「2021年3月期」まで、

「11期連続増配」を「達成」して参りたい
 と思います。

また、

「2021年3月期」の「配当」は、

「2010年」と比べて、「12倍」となる、

「一株28円」を計画しております。

◆営業利益目標 **12億円 (44.2% アップ!)**

(単位：百万円)	2019/3期			2021/3期		
	計画	比率%	成長率%	計画	比率%	成長率%
売上高	11,500	-	4.6	12,600	-	14.6
社会インフラ事業	7,050	61.3	2.8	7,350	58.3	7.2
先進インダストリー事業	4,450	38.7	7.5	5,250	41.7	26.9
(内、IoX総合エンジニアリング事業)	3,950	34.3	10.0	5,000	39.7	39.2
営業利益	880	7.7	5.7	1,200	9.5	44.2
経常利益	890	7.7	3.8	1,210	9.6	41.2
当期純利益	564	4.9	1.9	720	5.7	30.2
EPS (円)	62.4	-	1.8	79.7	-	29.7
ROE (円)	16.0	-	-	17.0	-	-
従業員数 (人)	533	-	7.0	600	-	20.4
配当金 (円)	22	-	4.8	28	-	33.3
配当性向 (%)	35.2	-	-	35.1	-	-

※成長率は、2018年3月期末比

21

最後に、経営指標は、ご覧通りです。

2021年 3月期の

「売上高」は、「14.6%増」の「126億円」、
「営業利益」は、「44.2%増」の「12億円」と、

「IoX 総合 エンジニアリング 事業」を
「成長ドライバー」に、
「利益」での「成長」を目指してまいります。

以上が、新・中期経営計画の、ご説明となります。

2018年3月期 決算概要

新・中期経営計画 Vision2021

2019年3月期 重点施策と業績見通し

22

続きまして、
今期 2019年3月期 の、
「重点施策」と「業績」について、
ご説明 いたします。

事業領域の拡大

社会インフラ事業

- 更新需要の取込み ⇒ 電力・ガス（事業再編・分社化、新規顧客獲得）
- 新領域の開拓・拡大 ⇒ 「宇宙システム」「5G（次世代通信）」「鉄道」

先進インダストリー事業

- ものづくりIoT化 ⇒ 「次世代EV自動車」「設備IoT」「医療・介護IoT」
- キャッシュレス ⇒ 「次世代決済・カード」

新たな価値の創造・提供に挑戦

IoX総合エンジニアリング事業

- セキュリティ ⇒ セキュア・IoTプラットフォームの開発・提供
(デバイス、ゲートウェイ、パッケージ)

競争優位の発揮

- グローバル開発体制の強化 ⇒ ベトナム地区
- 産学連携・共同研究 ⇒ セキュリティ・GISで新たな提携、研究

23

まず、「事業領域」の「拡大」ですが、「社会インフラ事業」では、「本格化」する「電力会社」の「分社化対応」で、「領域拡大」を図ると共に、「電力分野」での「新規顧客開拓」を進めて参ります。

「先進インダストリー事業」では、「次世代EV自動車」に搭載する「各種制御システム」の開発と「自動運転」の実現に向けた取り組みを「顧客」とともに、加速させて参ります。

「新たな価値の創造・提供に挑戦」では、「半導体メーカー」「ハードベンダー」「メーカー」との「アライアンス」を進め、「当社独自」の「セキュアIoTプラットフォーム」の進化と、「早期市場投入」を計画しております。

競争優位の発揮では、「ベトナム・ダナン地区」での、「開発体制」の「増強」に取り組むと共に「セキュリティ」と「GIS」で、「大学」との「共同研究」の「深堀」を進めます。

◆ **9期連続の増益!** (**過去最高益更新!!**)

(単位:百万円)	2018/3期		2019/3期		前年同期比		
	実績	構成比%	見通し	構成比%	増減額	変動P	増減率%
売上高	10,997	-	11,500	-	502	-	4.6
社会インフラ事業	6,858	62.4	7,050	61.3	192	△1.1	2.8
先進インダストリー事業	4,138	37.6	4,450	38.7	311	1.1	7.5
(内、IoX総合エンジニアリング事業)	3,592	32.6	3,950	34.3	358	1.7	10.0
売上総利益	2,516	22.9	2,650	23.0	133	0.1	5.3
営業利益	832	7.6	880	7.7	47	0.1	5.7
経常利益	857	7.8	890	7.7	32	△0.1	3.8
当期純利益	553	5.0	564	4.9	11	△0.1	1.9

24

2019年3月期の、通期業績見通しは、

売上高は 「 115億円 」、
 営業利益は 「 8億 80百万円 」、
 当期純利益は、「 5億 64百万円 」と、
 「 最高益の更新 」を見込んでおります。

「 IoX 総合エンジニアリング事業 」を
 成長ドライバーとして

引き続き、「 社会インフラ 関連 」の 需要を
 しっかりと 取り込むとともに

「 先進インダストリー事業 」での、
 ソリューション 提供を 伸ばし、
 計画の達成に 取り組んで まいります。

◆ 先進インダストリー事業 好調！

(単位：百万円)	2018/3期 2Q		2019/3期 2Q		前年同期比		
	実績	構成比%	見通し	構成比%	増減額	変動P	増減率%
売上高	5,397	-	5,630	-	232	-	4.3
社会インフラ事業	3,502	64.9	3,510	62.3	8	△2.5	0.2
先進インダストリー事業	1,895	35.1	2,120	37.7	225	2.5	11.9
(内、IoX総合エンジニアリング事業)	1,742	32.3	1,800	32.0	58	△0.3	3.3
売上総利益	1,266	23.5	1,288	22.9	21	△0.6	1.7
営業利益	402	7.5	420	7.5	17	0.0	4.3
経常利益	418	7.8	424	7.5	6	△0.2	1.5
第2四半期純利益	283	5.3	288	5.1	5	△0.1	1.8

25

第2四半期の、「業績見通し」ですが、

「社会インフラ事業」は、「前期並み」を維持しつつ、

「先進インダストリー事業」は次世代自動車等を中心に、好調であることから、

売上高は、

前期比「4.3%増」の「56億円」、

営業利益は、

前期比「4.3%増」の「4億20百万円」と、

「増収・増益」を、見込んでおります。

◆ 配当方針

- 配当性向 **35%**以上 (**2** ポイントUP)
- 配当計画 年 **2** 回 (中間、期末)

◆ 配当予想

(単位：円)

	2017/3期	2018/3期	2019/3期
中間	9 (※1)	10	11
期末	11	11	11
年間	20	21	22

(※1) 17/3 中間配当には、東京証券取引所第1部上場記念配当2円を含む。
2016/10/1付、株式分割1：2を実施。分割を考慮した配当金を表記。

配当性向は、「 35%以上 」、
株主配当は、「 中間 ・ 期末の 年2回 」と
しております。

今期は、
「 上期、 11円 」、
「 下期、 11円 」の 配当を 予定しております。

(今期の 配当性向は、「 35. 2% 」の 見込みです。)

対象株主 & 時期

- 毎年9月30日、3月31日の株主様（年2回）
 - 200株以上4,000株未満 : 12月、6月に優待品を発送予定
 - 4,000株以上 : 11月、5月にカタログを発送予定

優待内容

■ **200株以上4,000株未満**
 「緑の募金」付きQUOカードを贈呈

- 200株以上 1,000株未満 500円相当
- 1,000株以上 2,000株未満 1,000円相当
- 2,000株以上 4,000株未満 1,500円相当

● **保有期間特典**
 1年以上でQUOカード1枚（500円相当）を
 年間2枚追加贈呈

■ **4,000株以上**

- QUOカード(3,000円相当) 又は
- 「紀州梅ギフト」から
 選べる株主優待カタログを贈呈

創業天保五年
株式会社 東農園

注. 写真はイメージで実際の商品と異なる場合があります。

「株主還元」として
 「配当」に加え、

「保有株数」に応じた「優待制度」を設けており、
 「梅ギフト」や「クオカード」を

年2回、
 贈呈させていただきます。

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。又、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

又、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

尚、本資料に記載されている会社名及び商品名は、各社の商標又は登録商標です。

■お問合せ先

 **アドソル日進株式会社**

URL <http://www.adniss.jp/>

【本 社】 〒108-0075 東京都港区港南4-1-8 リバージ品川9階、10階

TEL: 03-5796-3131 (代表)

経営企画室 広報・IR担当 TEL: 03-5796-3261

メール : ir@adniss.jp

これにて、
「 2018年3月期 の 決算概要 」、
「 新・中期経営計画 Vision2021 」、
「 2019年3月期 業績見通し 」の
説明を終わらせていただきます。

ご清聴、誠に ありがとうございます。